

2026 年 7 月 17 日

【SUPER FORMULA 第3戦・第6戦・第7戦 / 富士スピードウェイ】大会直前情報



富士スピードウェイで行われる全日本スーパーフォーミュラ選手権の今シーズン第4大会。第6戦と第7戦の2レースが行われる予定だったこのレースウィークは、4月下旬のオートポリス大会で悪天候のため順延となった第3戦の決勝レースを加え、あわただしい3連戦となります。

屋外のサーキットで行われるモータースポーツは天気との戦いでもあります。この週末の富士大会も、練習走行が行われた17日(金)は突然の強い雨に見舞われ、予定していたセッションの一部がキャンセルとなりました。第6戦が行われる18日(土)は午後に曇りの予想。第3戦と第7戦が行われる19日(日)は天気予報に太陽のマークが見え隠れしています。今大会は少々お天気に恵まれない予想ですが、季節はそろそろ梅雨明けを迎え本格的な夏へと突入。気温もぐんぐんと上昇し、シーズン中盤戦は暑さ、熱との戦いに入っていきます。



ヨコハマタイヤがスーパーフォーミュラに供給しているサステナブルな素材を配合したレーシングタイヤは、開幕戦や最終戦といった寒い時期から、夏の猛暑の時期まで幅広い温度域をカバーできるよう開発しています。それでも、高温域でタイヤにかかる負荷が大きいことは変わりません。温度が上がるとタイヤのゴムが柔らかくなって粘着性が上がると、グリップ性能は上がる一方、路面温度が高い状態が続くと接地面のゴムがいつも以上に削られるようになり、タイヤが早く消耗してしまうことも考えられます。また、グリップ性能を出すのに最適な温度域を超えると、今度はタイヤの粘着性能が下がりグリップ性能が下がります。いわゆる「熱ダレ」と呼ばれているもので、熱を起因とする性能低下＝デグラデーションを如何にコントロールするか、トップドライバーたちの技量が試されることとなります。



この週末の空模様は不安定で、真夏のような高温には届かない予想ではあるものの、気温や路面温度の推移、更には急な雨量も、予想が難しいコンディションです。スタート時の設定や、ウォームアップラップなどでそれぞれのチームが適正だと考えるタイヤ内圧に合わせられるかということも注目の一つかもしれません。

そして、ドライバーにとっては暑さに加えて湿度の高さも体力を奪われる大きな敵。過酷なコンディションの中で、最高のパフォーマンスを発揮し、3回目となる瑤子女王杯を制するのはどのドライバーでしょうか。